



## ミャンマー視察 2017 報告書



## 催行概要

### 目的：

- JCV スペシャルサポーターの早見優さんと娘のありささんに、ご寄付がワクチンとして子どもたちに届いている現状を見ていただき、今後の JCV 広報活動強化のための素材とすること
- 支援国の国土、自然、生活、経済の状況をワクチン接種事情の背景として情報収集し、理解すること

**期間：** 2017 年 6 月 11 日 (日)～6 月 17 日(土)

**場所：** ミャンマー連邦共和国（ヤンゴン管区、マンダレー州）

**参加者：** 2 名 早見優（JCV スペシャルサポーター）、ありさ



**JCV スタッフ：** 2 名

高橋 昌裕、原 佑理子

## スケジュール

### 【1日目：2017年6月11日（日）】

| 時間    | 活動内容                                             |
|-------|--------------------------------------------------|
| 11:50 | 成田国際空港集合                                         |
| 13:50 | 成田空港発（✈NH813／全日空(ANA)）<br>フライト7時間10分、時差-2時間30分   |
| 18:30 | ヤンゴン国際空港着<br>ホテルにチェックイン（Chatrium Hotel）キックオフディナー |

### 【2日目：2017年6月12日（月）】

| 時間            | 活動内容                                   |
|---------------|----------------------------------------|
| 7:30 - 8:00   | 朝食                                     |
| 9:00 - 10:00  | UNICEF 事務所にてブリーフィング（保健省予防接種担当官）        |
| 10:00 - 12:00 | 中央保冷库を視察                               |
| 12:00 - 14:00 | 昼食                                     |
| 14:00 - 15:30 | ヤンゴン空港へ移動                              |
| 16:00 - 16:45 | 空路マンダレーへ（UB-133）                       |
| 17:00 - 18:00 | ホテルにチェックイン（Mandalay Hill Resort Hotel） |
| 18:00         | 解散                                     |





### ▼ UNICEF 事務所でのブリーフィング

- ・各コミュニティでは月に 1 度出張ワクチン接種（アウトリーチ）を行っているが、これに加え、病院で予防接種を週 2～3 日行うことを推進し、より多く子どもたちを接種する機会を増やしている。
- ・特に紛争地域などで、接種率が 50%未満の村や町もある。こうした場所ではスペシャルキャンペーンを打ち、全ての子どもたちが敵味方に関係なく、感染症から守られるよう啓発している。
- ・老朽化したコールドチェーンの約 65%が、JCV 支援のお陰もあり、過去 1.5 年の間に新しくされた。
- ・ミャンマー政府の強力なリーダーシップの下、「子どもたちのワクチンは自国でまかなう」という方針はこれからも継続するだろう。
- ・早見優さん「日本では一部でワクチン接種を見合わせる人たちが出てきたりしている。副反応を心配しているのか理由はよく分からないが、ワクチンは大事。こういうメッセージを日本でも伝えていきたい。」

### ▼ 中央保冷库の視察

- ・ミャンマーに届くワクチンはまずは全てこの中央保冷库に収納。冷蔵庫の中で 3℃～8℃、冷凍庫ではマイナス 20℃で保管される。早見優さんとありささんも保冷库の中に入り、ワクチンの温度管理について説明を受けた。ここから飛行機・トラック・鉄道などで全国 22 の保冷库に届けられる。
- ・技術者が毎日定期的に温度確認をしてワクチンを守っている。各保冷库には温度センサーがあり、温度管理はオンラインでモニタリングされている。少しでも温度が下がったり異状が発生したりするとスタッフの携帯電話に警告メッセージが飛ぶ仕組みになっている。



【3日目：2017年6月13日（火）】

| 時間            | 活動内容                         |
|---------------|------------------------------|
| 9:00 - 10:00  | 朝食                           |
| 9:00 - 10:00  | マンダレー子ども病院訪問、医療責任者へ表敬訪問      |
| 10:00 - 12:00 | 病院でのワクチン接種を視察、病院スタッフへのインタビュー |
| 12:00 - 13:00 | 昼食                           |
| 13:00 - 14:00 | マンダレー王宮見学                    |
| 14:00 - 15:00 | マンダレー州 UNICEF 事務所訪問          |
| 15:00 - 16:00 | マンダレー州保健局長への表敬訪問             |
| 16:00 - 17:00 | マンダレー州保冷库視察                  |
| 17:00 - 18:00 | ホテル着、解散                      |



### ▼ マンダレー子ども病院訪問

- ・2011年に子ども専門病院として設立した病院を訪問。医療責任者 Dr. That Swe (タッスエさん) からブリーフを受けた後にワクチン接種会場を視察した。
- ・同州では、病院でワクチン接種ができる日を週4日設けている。550床の当院では、火・金を担当し、別の300床の病院では月・木を担当している。昨年は約2,000人にワクチン接種を行った。当院でのワクチン接種を開始して以来、病気は大幅に減少し、特にはしかの患者数が激減した。
- ・ミャンマーのワクチン接種に関わる最大の課題は、電力が不安定なこと。コールドチェーンの管理がとても難しい。この病院には緊急用の発電機がある。ソーラーパネルを使用しているところもあるが、多くの場合、ソーラーパネルは照明用であり、コールドチェーンを管理するための電力としては不十分。コールドチェーン拡充は、遠隔地で特に必要不可欠。こうした遠隔地では電力が全く通っていない場所さえある。
- ・保健師(midwives)や看護師(nurses)の数がミャンマー全体で不足していることも課題のひとつ。
- ・「日本の民間セクターからの支援にとっても感謝している。20年の支援はすばらしい。ワクチン接種は子どもを守るためにとても重要。子どもたちは私たちの未来そのものだからです」とJCV支援を感謝するお言葉をいただいた。
- ・ワクチン接種会場では、早見優さんが初めての経口ポリオワクチン投与に挑戦。なかなか一滴が落ちず、「結構難しい」。

### ▼ マンダレー州保健局長 (Dr. Win naing ウィンナイさん) の表敬訪問

- ・局長はミャンマーの数々の地方で保健担当官となり、53歳で現在の職に就いた方。1996年にポリオのワクチン接種を担当したことが、大きな経験となり、ワクチン接種のモチベーションになっているとのこと。
- ・定期予防接種(EPI)の重要性を感じたというエピソードを紹介してくれた：「これまでにポリオの患者は見たことがないが、30歳のはしか患者が2名出たことがある。当時、国際的な推奨スケ





ジュールではない 1 回接種だったため免疫が付かず成人し感染したのだと思う。適切なスケジュールで EPI を継続することがとても重要」

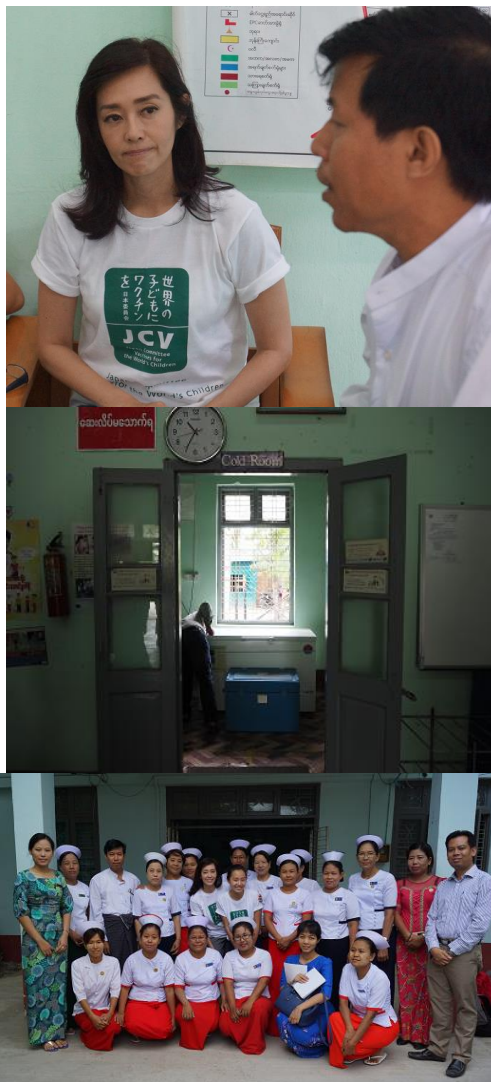
- ・局長はあたたかい笑顔で「20 年の支援に感謝している。日本人とミャンマー人は心が近いと思っている。ミャンマーの子どもたちの豊かな成長のためにも、これからも引き続き手を取り合って、努力していきたい」とメッセージを送ってくれた。
- ・その後、保健局裏手に移動し、同州のクールドルームを見学した。設置して 30 年近くになる保冷庫を丁寧にメンテナンスしてずっと使用しているなど、同州の子どもたちを守るための設備がきちんと整っている印象を受けた。



【4日目：2017年6月14日（水）】

| 時間            | 活動内容                                    |
|---------------|-----------------------------------------|
| 7:00 - 9:00   | 朝食                                      |
| 9:00 - 9:30   | Pyigyitagon 町(Township)へ移動              |
| 9:30 - 10:00  | Pyigyitagon 町(Township) 保健所長を表敬訪問       |
| 10:00 - 12:00 | 保健所のスタッフ、16 歳と 20 歳の女性たちにインタビュー         |
| 12:00 - 13:00 | 昼食                                      |
| 13:00 -14:00  | マンダレー保健学校（Mandalay Midwifery School）へ移動 |
| 14:00 -16:00  | 教師と学生たちにインタビュー                          |
| 16:00 -17:00  | ホテル着→関係者との夕食会                           |





### ▼ Pyigyitagon 町(Township) 保健所長 (Dr. Hnin Zaw Thein ニン ゾー テイン) を表敬訪問、コールドルーム視察

- ・1993 年に、当初 10 名の保健師と立ち上げた保健所。人口増加と政府の援助があり、現在は保健師 14 人で対応している。町内を 3 地区に分け、各区に担当保健師をつけている。最近小さいクリニックができた区が 1 つあるが、他の 2 区にはクリニックがないため、ワクチン接種の場合は町長や村長の家を借りて行っている。
- ・3 つの区では、抱えている子どもたちのワクチン接種スケジュールを把握しているので、次の接種日が来たらワクチン接種を行うようにしている。コールドルームは当保健所にしかない。ワクチン接種日になると、保健師が、必要数+予備をワクチンキャリアに詰め、区内のワクチン接種会場に運ぶ。
- ・2012 年にはしかがミャンマー全土で流行したとき、この地区でも重症患者ではないが患者が発生した。それ以降、感染症の流行は見えていない。子どもの感染症がグッと減ったという実感がある。ワクチン接種のスケジュール通りにきちんと接種するように、接種漏れがないように管理することがこれからも大事な。

### ▼ 保健所スタッフにインタビュー

・30 年以上のキャリアがあるベテラン保健師でもポリオやはしかの重篤患者を目にしたことはないほど、この地区の子どもワクチン接種は適切に管理されている印象を受けた。

・保健師たちは、当地区の保健に関する業務を全て担当している（出産補助、HIV、マラリア、衛生を保つための掃除など）。仕事は多岐にわたり、忙しく重圧もあるそうで、「娘には看護師になってほしいとは思わない」と多くの看護師が首をふる場面もあった。





### ▼ 16 歳と 20 歳の女性たちにインタビュー

- ・ JCV がこれまでに支援したワクチンを接種して大きくなった女性たちに、同世代の 16 歳のありささんと母である早見優さんがインタビューをした。
- ・ ワクチンは、体の健康と病気の予防のためのものだとして親や保健省の人に教えてもらっており、ワクチンの重要性をしっかりと理解している。生後すぐに病気になってしまう子どもたちを目にしたこともあり、彼女たちの将来の夢には、地域に貢献する内容が盛り込まれている：
- ・ (左から) Saw Kalary (ソー カレイヤさん)  
医者になって貧しい人を助けたい。肝炎になった時など、周りにクリニックがなくて大変だったときがある。医者になってそういう医療が届かない場所を助けたい。
- ・ Su Myat Noe (スー ミヤツ ノーさん)  
貧しい家庭の子どもたちに無料で教える先生になりたい。
- ・ Luwin Mar Aung (ルウィン マ アウンさん)  
経済をベースに社会のレベルアップをするためエコノミストになりたい。日本とミャンマーの懸け橋になりたい。

### ▼ マンダレー保健学校 (Mandalay Midwifery School) 訪問

- ・ 1958 年 11 月 1 日に誕生した当校からは、これまでに 3333 人の卒業生を送り出している。現在、153 名の学生が在籍しており、24 カ月で学士号を取得するカリキュラムで勉強している。
- ・ 30 年以上ものキャリアのある San San Oo (サン サン ウー) 校長がある思い出を教えてくれた。自身が地方の現場に派遣されたときのこと、カチン州から徒歩で 160 キロ歩いてようやく到着する村に派遣さ





れた。現場に向かう途中に、2 人の女性のお産を手伝った。病院も医療器具も何もなく、周りに誰もおらず、自分 1 人で取り上げた。この経験がずっと心に残っていて、後進育成の原動力になっているとのこと。

- ・保健師たちは、ワクチンが当たり前のものと思われないように努力している。ある保健師曰く、「ミャンマーの EPI が始まって約 30 年。この間に、人々の健康は大きく改善された。その様子から人々はワクチンのベネフィットが分かってきたと思う。"trust on immunization"が構築されたと思う。」
- ・保健師(midwives)は、コミュニティと公衆衛生をつなぐ大変重要な存在であることが分かる。生徒の 1 人は、涙ながらに病気で亡くなった父親の遺言で入学したことを話してくれた。皆、大きな思いを背負って保健師の道を選んだことが分かる。



【5日目：2017年6月15日（木）】

| 時間            | 活動内容                       |
|---------------|----------------------------|
| 7:00 - 8:30   | 朝食                         |
| 8:30 - 9:30   | Tada-U 町(Township)へ移動      |
| 9:30 - 10:00  | Tada-U 町(Township)保健所を表敬訪問 |
| 10:00 - 10:30 | Sin Gyone 村へ移動             |
| 10:30 - 12:00 | Sin Gyone 村でのワクチン接種を視察     |
| 12:00 - 13:00 | 昼食                         |
| 13:00 - 14:00 | 小学校を訪問                     |
| 14:00 - 15:00 | 村の 16 歳と 20 歳の若者にインタビュー    |
| 15:00 - 17:00 | ユー・ペイン橋やアマラプーラを散策          |
| 17:00 - 18:00 | 夕食→ホテル着、解散                 |





### ▼ Tada-U町(Township)保健所を表敬訪問、コール ドルーム視察

- ・所長の Dr. Myint Oo（ミイン ウーさん）から当地区の保健環境についてブリーフ。町営病院×1、野営病院(station hospital)×3、ヘルスセンター×4 があり、人口は約 15 万人。うち、5 歳未満は約 1 万人。
- ・定員よりも、看護師と公衆衛生スタッフの人数が 15 名ほどたりておらず、人材確保が課題。
- ・子どもの下痢の症状の多くは口タによるものだが、2012 年から口タワクチンが導入されたので今後減少するものと思われる。

### ▼ Sin Gyone 村でのワクチン接種視察と小学校訪問

・シンギョン村で、今回 2 度目のワクチン接種の現場を視察した。主に 0 歳～1 歳児を抱えたお母さんたちが村の保健所に集まり、ワクチンの順番を待っていた。注射も含めて、複数のワクチンを接種する子どもも多く、子どもが泣き声をあげるたびに「見ていられない」と顔をそむけて抱く腕に力をこめるお母さんたちがたくさんいた。

・早見優さんは 2 度目の経口ポリオワクチン接種に挑戦。「(1 回目よりも) 今度はうまくできました」と笑顔。私も接種を試みたが、思ったよりもチューブに固さがあり、一滴をたらすのにかなりの力がいることが判明。命の守る一滴の重みを感じた。



・この視察では、早見優さんとありささんが友人・知人に声をかけて協力を募り、たくさんの文房具を持参。村の保健所のすぐ隣あるに小学校で、元気いっぱいの子どもたちに直接文房具を手渡した。



【6日目：2017年6月16日（金）】

| 時間            | 活動内容            |
|---------------|-----------------|
| 7:00 - 8:00   | 朝食、チェックアウト      |
| 8:00 - 9:00   | マンダレー空港チェックイン   |
| 10:10 - 12:10 | 空路ヤンゴンへ(K7-252) |
| 12:10 - 13:30 | 昼食              |
| 13:30 - 18:00 | 自由時間            |
| 18:00 - 19:00 | ヤンゴン国際空港へ       |
| 21:45         | 空路成田へ（NH 814）   |
| 翌 17 日 6:50   | 成田着             |

## ミャンマー視察を終えて

2017年6月11日(日)～6月17日(土)、JCV スペシャルサポーターの早見優さんと娘のありささんと、JCV 職員 2 名でミャンマーを訪れました。雨季でお天気が心配でしたが、行程中は一度も雨に降られることなく無事に視察を終えることができました。早見優さんは、2006 年から JCV を応援しており「ずっと視察に行きたかった」と言ってくださっていました。この度、ついにスケジュールが合い、視察が実現しました。そして、夏休み中の娘のありささんもご同行いただけることになりました。早見優さんには、支援者さまの代理として、ありささんには若い世代の代表として、ミャンマーの子どもワクチン接種の現状をご覧いただき、今後の JCV 広報につなげることが今回の視察の目的です。

ミャンマーの予防接種拡大計画（EPI）は、1978 年に 104 行政区での 4 種類の予防接種に始まり、現在では、330 行政区全てで 10 種類の予防接種を行うまでに発展しています。2014 年 3 月 27 日にポリオフリー宣言が達成されました。民主化を機に、同国の保健体制には大きな進歩が見られます。ワクチンは自国で負担するというポリシーが提示され、昨年から JCV の支援内容はコールドチェーンに切り替わりました。UNICEF ミャンマー事務所曰く、「政府の強力なリーダーシップや政治意欲は今後も継続するだろう」とのことです。

私たちは、ヤンゴンの中央保冷库を視察した後に、マンダレー州に移動しました。州レベルでのワクチン接種とワクチン保冷状況を視察し、タウンシップ（町）という行政区レベル、そして村レベルでの状況を視察しました。同国内の各レベルの取り組みを視察したことで、JCV が贈ったワクチンやコールドチェーンがどのように輸送され、使用されているのかを具体的に理解することができました。

加えて、今回の視察のハイライトは、ミャンマーの 16 歳と 20 歳の女の子たちとありささんの交流です。JCV がミャンマーにワクチンを支援して 2016 年で 20 年になります。今回出会った女の子たちは、JCV がこれまでに支援したワクチンを接種して大きくなりました。スマホの顔認証アプリで動画を撮って笑い合うなど、この世代ならではのコミュニケーションがあった一方で、「医者になって貧しい人を助けたい」「貧しい家庭の子どもたちに無料で教える学校を開きたい」「エコノミストになって日本とミャンマーの懸け橋になりたい」など、社会に貢献したいという強い思いが次々と彼女たちの口から飛び出しました。皆さまのご寄付がワクチンに換わり、着実にミャンマーの新しい世代を作っていることを実感しました。ワクチン接種は、感染症を予防するだけでなく、子どもたちの未来、ゆくゆくは国の将来を形成するインパクトのある支援だと言えるでしょう。

どこに行っても JCV の支援に感謝の言葉があったのは、ミャンマーの人々がワクチン接種の重要性を理解し、子どもたちの命が守られている実感があるからなのだと思います。JCV が 1996 年から継続して同国へワクチン支援を行うことができたのは、日本の支援者の皆さまからのご寄付のお陰です。ミャンマーの人々からの心からの感謝の気持ちを皆さまにお伝えしたいと思います。今後とも、引き続きのご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

広報・啓発・教育担当 原 佑理子



**認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会**

東京都港区三田 4-1-9 三田ヒルサイドビル 8F

TEL: 03-5419-1081

FAX: 03-5419-1082

MAIL: [info@jcv-jp.org](mailto:info@jcv-jp.org)